

## 2013年度第4回理事会報告

■日時：2013年12月14日（土） 13：30～16：40

■場所：東洋大学白山キャンパス 第一会議室（2号館3階）

### 【会長挨拶】

岩田正美会長より理事会開催前挨拶があった。

### 【開会宣言（欠席理事の確認）と議事録署名人選出】

岩田正美会長が出席理事を確認し、本日の理事会が成立したことを宣言。岩田正美会長と太田貞司監事、里見賢治監事を議事録署名人とすることを確認した。

### 【審議事項】

#### 第1号議案：第4期役員選挙管理委員委嘱について

金子光一選挙担当理事より、第4期役員選挙管理委員委嘱に関連し、第3期代議員選挙の結果報告および第3期代議員選挙規則について2件の文言修正の提案があった。

##### 1. 第3期代議員選挙結果報告

187名を代議員当選者として決定。この内、6名の辞退者があり、181名を当選確定者とした。また、オンライン投票システムのバナーが一時消失する事態があったが、大きな支障はなかったことが報告された。

##### 2. 代議員選挙規則について

代議員選挙規則第7条4項の文言のうち、「全国の当選人」（2か所）は、地域ブロック候補者と全国候補者の合算した当選人を指すものと混同される恐れがあるため、文言から削除すること、および代議員選挙規則第7条5項の「すみかに」は表記ミスであるため、「すみやかに」に修正することについての提案が委員会より出された。

引き続き、秋元美世総務担当理事より以下5名の第4期役員選挙管理委員候補者の推薦があり、満場一致で承認された。

[第4期役員選挙管理委員]（敬称略）

平野 寛弥（目白大学）、本多 勇（武蔵野大学）、森山 千賀子（白梅学園大学）、湯浅 典人（文京学院大学）、金子 光一（東洋大学・理事）

#### 第2号議案：2014年度以降の学会事務局業務委託について

秋元美世総務担当理事より、2013年度委託契約について経過説明と共に報告が行われた。岩間伸之財務担当理事からは、2013年度契約に伴う引継ぎ・来年準備費用については年度内に確実に実行、会員サービスとして滞ることのないよう、費用については補正予算案で提案することが補足された。

引き続き、2014年度法人事務局業務、秋季大会業務、編集業務、印刷業務の契約について説明が行われ、大島巖理事より、英文誌の電子ジャーナル発行に関する関連する業務

についての委託内容について質問があり、岩田正美会長より契約には入っていないが2014年度に予算配分が必要であれば、事業計画書の提出で対応できることの補足説明があった。

また、①事務局移転に伴う各種事務処理のため、登記上の住所を、2月末までに「東京都新宿区山吹町358番地5 アカデミーセンター」に変更すること、②定期購読の販売は国際文献社定期購読事業部に委託すること、の2点について提案され、満場一致で承認された。

### 第3号議案：学会賞審査委員の委嘱について

岩田正美会長より、学会賞審査委員会規程に定める第5条2項の委員（5期委員）の任期が終了したこと、次の委員を選任する必要があることの説明があり、新委員の委嘱について以下6名の候補者推薦があり、満場一致で承認された。

[第6期学会賞審査委員]（敬称略）

太田 貞司氏（聖隷クリストファー大学）、大友 昌子氏（中京大学）、  
福山 和女氏（ルーテル学院大学）、古川 孝順氏（西九州大学）、  
牧里 每治氏（関西学院大学）、松原 康雄氏（明治学院大学）

[任期] 2013年12月1日～2015年10月（秋季大会終了日）

なお、牧里每治委員については、第4期と5期で在任されているが、担当役員として在任なので、学会賞審査委員会規程第6条2項の規定に反してないことが補足された。

### 第4号議案：2015年度第63回秋季大会開催校について

岩田正美会長から2015年第63回秋季大会開催校として久留米大学が提案され満場一致で承認された。久留米大学所属の鬼崎理事より挨拶が行われた。

### 第5号議案：学会本部事務職員への特別手当支給について

岩間伸之財務担当理事より、学会事務局業務を業者に委託することにより現在の職員は、2014年3月31日をもって雇用契約が満了となることが報告された。一般社団法人設立の準備や学会の基盤整備に意欲的に学会業務の改善に努めていただいた学会事務局職員に一時金を支給することが提案され、審議の結果、満場一致で承認された。

### 第6号議案：2013年度第二次補正予算について

岩間伸之財務担当理事より、国際文献社への業務委託にあたり、業務委託経費や退職慰労金を含む本部事業の補正が必要となったこと、関西・九州からの予算修正要請があることが報告され、補正対象事業及びその額について審議が行われ、提案通り満場一致で承認された。

## 第 7 号議案：2014 年度事業計画立案について

秋元美世総務担当理事から以下の提案が行われ、満場一致で承認された。

- ①2014 年度事業の骨子案
- ②2014 年度における具体的な事業計画案
- ③2014 年度事業計画・予算編成日程について

なお、各委員会や地域ブロック毎の 2014 年度事業計画案の提出締切は 1 月 31 日とする。3 月には次期理事体制がおおよそ決まる予定であるので、新しい理事体制がどのように予算編成に関わるか、現・新理事担当で話し合いながら進めることが報告された。

## 第 8 号議案：2014 年度予算編成について

岩間伸之財務担当理事より、当初予算策定のためには、第 7 号議案で承認された事業計画書の提出が必修であること、地域ブロックにおいては、各ブロックの経理担当者と資料を共有しながら当初予算策定に協力していただくこと、提出は 1 月 31 日の期限を厳守するよう要請があった。

なお、地域ブロックについては、大会参加費徴収の場合や機関誌販売を行う場合は、前年同様理事会での確認・承認が必要であるため予算案に明記し、開催校からの助成金・寄付金も予算に計上するよう説明が行われた。

最後に、本部に報告せず各地域ブロックで単独で保持している通帳や法人化以前の繰越金等がある場合は、一旦学会に寄付するよう要請が出された。寄付された金額については本部会計で計上ののち、改めて対象ブロックに戻し、地域ブロックの資産が減ることはないことが補足された。

## 第 9 号議案：会員入会審査について

25 名の入会を満場一致で承認した。

## 第 10 号議案：なし

### 【報告事項】

#### 1. 第 3 期代議員選挙について（審議事項 1 で報告）

#### 2. 2013 年度上半期事業推進状況・予算執行状況及び期中監査報告について

秋元美世総務担当理事より、上半期推進事業として、業務委託業者の選定作業、第 62 回秋季大会、第 10 回フォーラム等の事業が行われたことが報告された。

岩間伸之財務担当理事より、上半期の予算執行状況は概ね順調に経過しており、11 月 26 日に期中監査を行ったことが報告された。収益のほうで例年より会費収入状況が鈍いが、11 月に督促請求を行っており、回収を期待していること、会費収入の貸倒損失は 200 万

円前半台で押えたい旨が補足された。

引き続き、太田貞司監事より期中監査報告が行われ、①これまでの会費滞納者への督促等については効果が認められるので、引き続き継続されること、②日本社会福祉学会事務局の外部委託については、会員が不利益にならないように委託業務を遂行されること、③理事会として地域ブロック事業助成関係の把握について、引き続き、改善に向けて検討されることの3点について要望が出された。

### 3. 2013年度以降の業務委託について

秋元美世総務担当理事より、審議事項第2号議案での報告内容の続きとして、今後の引継ぎスケジュールについて説明があり、国際文献社からは、会員管理システムの移行や各種引継ぎ業務日程に関する補足説明が行われた。

### 4. 第61回秋季大会報告及び予算執行状況について

田中耕一郎理事より、第61回秋季大会について報告が行われた。

大会参加者数は893名、情報交換会は152名が参加されたことが報告された。研究発表については、口頭発表が201名（辞退1件含む）、ポスター発表81名（辞退1件含む）、特定課題セッションは10名の申込みがあり、合計292名（辞退者2名含む）であった。また、若手研究者のためのワークショップ参加者が約300名、大会校企画シンポジウム、国際学術シンポジウムの参加者が各400名前後と盛況であった。

引き続き、岩間伸之財務担当理事より、第61回秋季大会予算執行状況について説明があり、最終的には黒字決算になる見込みであることが報告された。

金子光一大会担当理事より、12月7日に行われた大会運営委員会で、分科会の司会及び全体統括者の選定を大会実行委員会だけで進めるには限界があるため、次回大会からは理事会にも協力を得ながら対応したい旨の意見があった。

### 5. 2014年度第62回春季・秋季大会について

金子光一大会担当理事より、第62回春季大会について報告が行われた。

2014年度の春季大会は、5月25日13時～17時、会場は東洋大学白山キャンパス1号館1102教室で行うことが報告され、参加費については、春季大会もWEBでの事前申込制を導入し、事前申込は1,000円、当日は1,500円、大学院生・学生は今まで通り無料にする。

プログラムとしては、①2013年度学術賞受賞者講演と②「一番ヶ瀬社会福祉研究の検証と継承」(仮)をテーマとするシンポジウムを企画している。①の学術賞受賞者講演については、講師の小原真知子氏が3月に行われる関東地域ブロックでも報告されるため、春季大会での講演内容と重なることがないよう内容を考慮したい。②のシンポジウムテーマについては、2012年9月にご逝去された一番ヶ瀬康子名誉会員に関する『一番ヶ瀬

社会福祉論の再検討－生活権保障の視点とその広がり－』が刊行されており、一番ヶ瀬先生の本学会に対する貢献度も考慮し、一番ヶ瀬先生の提唱した理論を再考し、引き継ぐべき点は何かを議論するテーマにする。

引き続き、田中英樹理事より第 62 回秋季大会進捗状況に関する報告が行われた。大会実行委員会の運営体制として、大会実行委員長は田中英樹理事、事務局長は岩崎香氏、事務局次長（会計担当兼務）は増田和高氏、他事務局 3 名になる。大会長については、早稲田大学の学術委員長は社会福祉とは関係ない分野専攻であるため、第 62 回秋季大会については大会長をおかない方針である。

大会開催日は 2014 年 11 月 29 日（土）、30 日（日）とし、会場は早稲田大学早稲田キャンパス・井深ホール（国際会議場）と 14 号館を使用する予定。

なお、大会テーマは「社会福祉は日本の未来をどう描くのか」とし、大会校企画シンポジウムは「他領域との連携によるまちづくり実践」を、若手研究者のためのワークショップは「研究法の違いによる研究の可能性と限界」をテーマとして進めている。

また、早稲田大学は PC を含む AV 関連設備が各教室に備えられておりすべての分科会での機器の使用が可能である旨の報告があったが、次回以降の開催校とのバランスも考慮し、従来どおり機器の使用を前提としないことで意見が一致した。

## 6. 2013 年 11 月 30 日開催「第 10 回フォーラム」報告

金子光一理事より、11 月 30 日に郡山で行われた第 10 回フォーラムについての報告が行われた。

参加者数は事前申込が 31 名、当日 11 名、計 42 名であったことが報告され、来場者アンケートでは、福祉の在り方、支援の在り方など、当事者が抱えている重要度の高い課題であることが十分理解できた、参考にできたなどの意見があった。

## 7. 大会・地域ブロック等における後援・協賛について

秋元美世総務担当理事より、標記事項について地域ブロックからの相談を受けた経緯が説明され、基準・枠組みがある方がよいとの意見があったことが報告された。基準としては、日本社会福祉学会の定款で定めている「目的」及び「事業」の趣旨に一致するものであること、地域ブロックとして後援するのに相応しい事業、催しであれば、各ブロックの判断で受け入れは可能であることが報告された。また、地域ブロックで後援を認めた行事については学会事務局に通知することが確認された。

## 8. 各種委員会報告

### 1) 研究倫理委員会報告

山縣文治委員長より報告。第 61 回秋季大会時の発表の質疑で、入所者の状況を施設職員への調査として実施されたことについて、倫理上の配慮は十分であったかどうか

かが問題となり、会長より調査依頼があった。研究倫理委員会としては、12月3日付けで該当会員に調査開始を通知し、12月10日に公式に調査依頼を行った。現行の研究倫理指針では間接的な調査方法によるアンケート利用については触れておらず、倫理指針の改訂も必要であることから、次回委員会では改訂のポイントについても議論する予定である。

## 2) 国際学術交流促進委員会報告

門田光司国際交流担当理事より報告。第61回秋季大会「国際学術交流シンポジウム」について、約400名の参加で、概ね順調に行われた。

2014年4月に韓国で行われる韓国社会福祉学会春季大会での自由研究発表応募要項をホームページに掲載した。翻訳や通訳のサポートも行いつつ、ハードルをさげて発表できる機会を広げていく方針である。

韓国社会福祉学会でのシンポジウムテーマは現時点では不明であるが、次回理事会までには日本側の進捗状況を報告する予定である。

留学生会員のための「ワークショップ」については、比較文化研究を中心に留学生の悩みに関連するテーマも検討しながら次期委員会に引き継ぎたい。

## 3) 機関誌編集委員会報告

木原活信編集担当理事より報告。学会誌等の編集状況について2013年10月に締め切った投稿論文は、2014年5月発行の55巻1号にあたるため、国際文献社の編集担当者が編集事務にあたっている。

英文誌（『Japanese Journal of Social Welfare』特別号）は、投稿数18本のうち、7本が査読中であり、3月に発行する予定である。

## 4) 広報委員会報告

山野則子広報担当理事より報告。学会ニュース第65号発行について2014年2月5日発行予定である。ホームページについては、英文誌WEBジャーナル掲載も考慮する。また、一般の新聞に学会の宣伝広告を掲載することを検討しており、委員会内で審議していく。

# 9. 関連団体報告

## 1) 社会福祉系学会連合報告

副田あけみ副会長より報告。11月30日、日本社会福祉学会第10回フォーラム終了後、同会場にて、日本社会福祉系学会連合平成25年度第2回シンポジウムが開催された。参加者は非常に少なく、次年度はシンポジウムではなく、公開講演会形式で、社会福祉学以外の方にも門を広げて参加できる企画を検討する。

## 2) 社会政策関連学会協議会報告

秋元美世総務担当理事より報告。社会福祉学若手研究者向け調査結果が社会政策関連学会協議会ホームページにリンクされていることが紹介された。

## 10. 各地域ブロック報告

### 1) 九州地域ブロック：第55回九州部会研究大会報告

鬼崎信好理事より報告。第55回九州部会研究大会が、「社会福祉と保健医療の連携から統合へ」をテーマとして、2014年6月28日～29日、鹿児島国際大学第7号館にて開催される。なお、第56回は宮崎県九州保健福祉大学、第57回は長崎ウエスレヤン大学で開催予定。また、九州ブロックの機関誌である「九州社会福祉学」が来年3月に第10号が発行される予定である。

## 11. その他

### 1) 学会事務局年末年始臨時休業について

例年通り12月26日～1月5日までとする。

### 2) 社会福祉関係者歌詞交歓会について

1月26日に開催される「社会福祉関係者賀詞交歓会」には田中英樹理事と大島巖理事が出席。

### 3) 研究倫理の注意喚起について

柴田謙治理事より、若手のためのワークショップ・研究会等開催時は、「研究倫理」の注意喚起も行ってほしいとの意見がだされた。

議長は、議事終了を告げ、16時40分 理事会を解散した。